

市町村合併しない貧乏くじをひいても、  
スターとしたばかりの「みんなでまちづくり」を進めませんか。



今回の市町村合併は、国の経済・財政運営の失敗のついで、自治体数を減らすことで、数10兆円を生み出して国の財政難を乗り切るというものです。地方分権の受け皿をつくる・広域行政の需要に対応するというのは方便で、国は中央集権の強化を図っています。

そのためのアメとムチが沢山、用意されています。アメのために合併を選択した場合、今まで行っていた嵐山町のまちづくりは、ストップしてしまいます。平成7年に役場庁舎を、山を造成してまで、つくったのには理由があります。

昭和の大合併のとき、菅谷村と七郷村が合併して、嵐山町が誕生しました。役場庁舎は旧菅谷村にありました。多くの公共施設が旧菅谷村に集中しました。合併しても七郷地域と菅谷地域は平等ではないという意識がどこかにあったのです。それで、役場庁舎は、南北に長い嵐山町の真中に位置する現在の位置が選択されました。現在の役場庁舎を中心にするかのように町づくりが進んでいます。

武蔵嵐山駅の橋上駅で駅西からも駅東からも、東上線が利用できます。平沢区画整理、都市計画道路、役場庁舎への菅谷地区からの進入路である町道1-22号線の建設、さらに、七郷地区からの役場庁舎への進入道路の建設と事業が進んでいます。今の役場庁舎が消え、

地区センターにかわり、支所にかわり、職員が数人だけ配置されるようになると、嵐山町は町づくりの拠点を失います。

学社融合で試みに行われ始めた通学合宿、都市計画マスタープランへの町民の参加など、少しずつですが、住民の意見を重視しようという姿勢に希望があります。

みんなが参加する町づくり、まだまだ熟年の男性が中心ですが、若い世代や子ども達も参加できる町づくりの可能性ががあります。

行政からサービスを受けるだけでなく、地域に自分のほしいものを求めて活動する気運が生まれつつあります。自分の地域をつくっていく力が新しい形で芽生えています。それを市町村合併で、つぶしたくないのです。

貧乏くじで、地方交付税を減額されても、巨額の負債を嵐山町のお金で返す工面をし、議員や職員を減らしても、新たな施設や道路を建設しないで、民間の活力を生かしたNPOやボランティアで嵐山町を運営すればいいのです。国の政策に振り回されることなく、自治体から国に発信していく時代を目指しましょう。

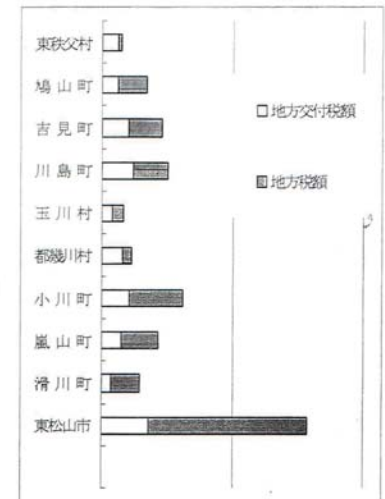
20世紀は経済効率を追いかけることで人と人の関係を希薄にし、地球環境は悪化しました。

市町村合併で、これ以上とりかえしのつかない状態になることは避けたいのです。

平成13年度の決算より

比企郡各市町村の地方税（市町村税）と地方交付税（市町村が必要と国が認めた基準財政需要額から地方税を差し引いて、国税を市町村に配分する税金）の割合

市町村名	地方交付税額	地方税額
東松山市	36億5313万	120億8819万
滑川町	6億8277万	22億4877万
嵐山町	15億2820万	28億262万
小川町	21億201万	40億5839万
都幾川村	15億7459万	6億8802万
玉川村	8億3427万	8億5164万
川島町	23億9201万	26億6567万
吉見町	20億5780万	25億7927万
鳩山町	12億7047万	21億6402万
東秩父村	12億6511万	2億6685万
東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・都幾川村・玉川村・川島町・吉見町・鳩山町・東秩父村	173億5935万	304億1344万
東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・都幾川村・玉川村・吉見町・東秩父村	136億9786万	255億8375万
東松山市・滑川町・嵐山町・吉見町	79億2189万	197億1885万



一人当りの地方交付税額と  
一人当りの地方税額

市町村	一人当りの地方交付税額	一人当りの地方税額
東松山市	40,028	132,453
滑川町	52,416	172,637
嵐山町	78,049	143,137
小川町	55,854	107,837
都幾川村	186,739	81,597
玉川村	143,359	146,355
川島町	101,589	123,211
吉見町	90,037	112,854
鳩山町	75,056	127,844
東秩父村	306,694	64,691
東松山他9町村	71,377	125,051
東松山他7町村	67,565	126,193
東松山他3町村	53,991	134,393

